

労働力調査（詳細集計）平成 29 年（2017 年）平均（速報）

平成 30 年 2 月 16 日公表

1 2017 年平均の役員を除く雇用者 5460 万人のうち、正規の職員・従業員は、前年に比べ 56 万人増加し、3423 万人。非正規の職員・従業員は 13 万人増加し、2036 万人。
非正規の職員・従業員について、男女別に現職の雇用形態についての主な理由をみると、男女共に「自分の都合のよい時間に働きたいから」が最も多く、男性は前年に比べ 8 万人増加、女性は 16 万人増

現職の雇用形態についての主な理由で多いものをみると、

男性（非正規の職員・従業員 647 万人）

「自分の都合のよい時間に働きたいから」 …… 157 万人（26.6%）と、8 万人増加

「正規の職員・従業員の仕事がないから」 …… 134 万人（22.7%）と、13 万人減少

女性（非正規の職員・従業員 1389 万人）

「自分の都合のよい時間に働きたいから」 …… 383 万人（29.1%）と、16 万人増加

「家計の補助・学費等を得たいから」 …… 330 万人（25.0%）と、2 万人増加

2 2017 年平均の完全失業者 190 万人（前年に比べ 18 万人減少）のうち、失業期間が「1 年以上」の者は前年に比べ 10 万人減少し、67 万人と、比較可能な 2002 年以降で過去最少

完全失業者を失業期間別にみると、

3 か月未満 …… 64 万人と、4 万人減少

3～6 か月未満 …… 27 万人と、前年と同数

6 か月～1 年未満 …… 25 万人と、2 万人減少

1 年以上 …… 67 万人と、10 万人減少

3 2017 年平均の非労働力人口 4376 万人（前年に比べ 50 万人減少）のうち、就業希望者は前年に比べ 13 万人減少し、369 万人。就業非希望者は 31 万人減少し、3913 万人。なお、就業非希望者のうち「65 歳以上」は 19 万人増加

就業希望者注）（369 万人）及び就業非希望者（3913 万人）を男女別にみると、

<就業希望者>

男性 …… 107 万人と、1 万人増加

女性 …… 262 万人と、13 万人減少

<就業非希望者>

男性 …… 1422 万人と、2 万人減少

女性 …… 2490 万人と、31 万人減少

・就業希望者（369 万人）のうち、非求職の理由を「出産・育児のため」とした者が 89 万人と、2 万人増加。「介護・看護のため」とした者が 18 万人と、1 万人減少

注) 就業を希望しているが「適当な仕事がありそうにない」などの理由により求職活動をしていない者

第1 雇用者（正規、非正規の職員・従業員別の動向など）

1 正規の職員・従業員は56万人増加、非正規の職員・従業員は13万人増加

2017年平均の役員を除く雇用者は5460万人と、前年に比べ69万人の増加となった。

このうち正規の職員・従業員は3423万人と56万人の増加となった。

一方、非正規の職員・従業員は2036万人と13万人の増加となった。

男女別にみると、男性は正規の職員・従業員が2310万人と23万人の増加、非正規の職員・従業員が647万人と4万人の減少となった。女性は正規の職員・従業員が1114万人と34万人の増加、非正規の職員・従業員が1389万人と16万人の増加となった。

2 非正規の職員・従業員が多い年齢階級は男性では65歳以上及び55～64歳、女性では45～54歳及び35～44歳

非正規の職員・従業員を男女、年齢階級別にみると、男性は2017年平均で65歳以上が170万人（26.3%）と最も多く、次いで55～64歳が149万人（23.0%）、女性は45～54歳が354万人（25.5%）と最も多く、次いで35～44歳が306万人（22.0%）などとなった。

また、対前年増減が大きい年齢階級をみると、男性は65歳以上が7万人の増加、女性は45～54歳が11万人の増加、55～64歳が10万人の増加などとなった。

雇用形態別にみると、パート・アルバイトが1414万人と11万人の増加、契約社員が291万人と4万人の増加などとなった。

3 非正規の職員・従業員の割合は、全ての年齢階級で低下

役員を除く雇用者に占める非正規の職員・従業員の割合を年齢階級別にみると、2017年平均で35～44歳及び65歳以上が前年に比べ0.7ポイント低下するなど、全ての年齢階級で低下した。

4 女性の非正規の職員・従業員の年間収入は、100万円未満が全体の44.3%を占め、前年に比べ0.8ポイントの低下

仕事からの年間収入階級別割合を男女、正規、非正規の職員・従業員別にみると、男性の正規の職員・従業員は2017年平均で500～699万円が22.7%（前年に比べ0.2ポイントの低下）と最も高く、次いで300～399万円が19.8%（前年と同率）などとなった。一方、非正規の職員・従業員は100～199万円が28.8%（前年に比べ1.5ポイントの低下）と最も高く、次いで100万円未満が26.9%（同0.7ポイントの低下）などとなった。

女性の正規の職員・従業員は200～299万円が28.1%（同0.3ポイントの低下）と最も高く、次いで300～399万円が22.8%（同0.4ポイントの上昇）などとなった。一方、非正規の職員・従業員は100万円未満が44.3%（同0.8ポイントの低下）と最も高く、次いで100～199万円が38.8%（同0.7ポイントの低下）などとなった。

5 非正規の職員・従業員について主な理由で最も多いものは、男女共に

「自分の都合のよい時間に働きたいから」（男性は8万人増加，女性は16万人増加）

非正規の職員・従業員を男女，現職の雇用形態について主な理由別にみると，男性は2017年平均で「自分の都合のよい時間に働きたいから」とする者が157万人（26.6%）と最も多く，前年に比べ8万人の増加，次いで「正規の職員・従業員の仕事がないから」とする者が134万人（22.7%）と13万人の減少などとなった。女性は「自分の都合のよい時間に働きたいから」とする者が383万人（29.1%）と最も多く，16万人の増加，次いで「家計の補助・学費等を得たいから」とする者が330万人（25.0%）と2万人の増加などとなった。

第2 完全失業者（失業期間別の動向など）

1 失業期間が1年以上の完全失業者は10万人減少

2017年平均の完全失業者（190万人，前年に比べ18万人の減少）を失業期間別にみると，失業期間が3か月未満の者は64万人と，前年に比べ4万人の減少となった。また，3～6か月未満の者は27万人と前年と同数，6か月～1年未満の者は25万人と2万人の減少，1年以上の者は67万人と10万人の減少となった。

2 「求人年齢と自分の年齢とがあわない」とする完全失業者は5万人減少

完全失業者を仕事につけない理由別にみると，「求人年齢と自分の年齢とがあわない」とする者は2017年平均で25万人と，前年に比べ5万人の減少，「希望する種類・内容の仕事がない」とする者は51万人と4万人の減少などとなった。

年齢階級別にみると，「求人年齢と自分の年齢とがあわない」とする者は35～44歳，45～54歳及び55～64歳で減少，「希望する種類・内容の仕事がない」とする者は25～34歳及び35～44歳で減少となった。

完全失業者について，仕事につけない理由別の割合をみると，「希望する種類・内容の仕事がない」とする者が2017年平均で27.4%（前年に比べ0.6ポイントの上昇）と最も高く，次いで「求人年齢と自分の年齢とがあわない」とする者が13.4%（同1.2ポイントの低下）などとなった。

年齢階級別にみると，「希望する種類・内容の仕事がない」とする者は，15～24歳が36.0%と最も高く，次いで25～34歳が31.0%などとなった。「求人年齢と自分の年齢とがあわない」とする者は，65歳以上が42.9%と最も高く，次いで55～64歳が28.6%などとなった。

3 前職が正規の職員・従業員で過去1年間に離職した完全失業者は5万人減少

過去1年間に離職した完全失業者（求職理由が「仕事をやめたため」の者）は、2017年平均で72万人と、前年に比べ7万人の減少となった。

前職の雇用形態別にみると、前職が正規の職員・従業員の者が32万人と5万人の減少、前職が非正規の職員・従業員の者が39万人と1万人の減少となった。

また、前職が非正規の職員・従業員の内訳をみると、前職がパート・アルバイトの者が23万人と2万人の減少、前職が労働者派遣事業所の派遣社員の者が5万人と1万人の減少などとなった。

第3 非労働力人口（就業希望の有無別の動向など）

1 就業希望者が多い年齢階級は、男性では15～24歳、女性では35～44歳

2017年平均の非労働力人口（4376万人、前年に比べ50万人の減少）のうち、就業希望者（就業を希望しているものの、求職活動をしていない者）は369万人と、前年に比べ13万人の減少となった。

男女、年齢階級別にみると、男性は15～24歳が44万人（41.5%）と最も多く、前年と同数、女性は35～44歳が77万人（29.4%）と最も多く、前年と同数などとなった。

一方、就業非希望者（就業を希望していない者）は3913万人と31万人の減少となった。年齢階級別にみると、65歳以上が2635万人と19万人の増加などとなった。

2 「適当な仕事がありそうにない」ため求職活動をしていなかった者は3万人減少

非労働力人口のうち、就業希望者を非求職理由別にみると、「適当な仕事がありそうにない」とする者は2017年平均で103万人と、前年に比べ3万人の減少となった。さらに、「適当な仕事がありそうにない」とする者のうち、「勤務時間・賃金などが希望にあう仕事がありそうにない」とする者は38万人と4万人の減少、「今の景気や季節では仕事がありそうにない」とする者は3万人と2万人の減少などとなった。

男女別にみると、男性は「適当な仕事がありそうにない」とする者が36万人（前年に比べ5万人の増加）と最も多く、女性は「出産・育児のため」とする者が89万人（同2万人の増加）と最も多くなった。

3 「適当な仕事がありそうにない」ため求職活動をしていなかった者のうち、

過去1年間に求職活動をしたことがある者は2万人減少

非労働力人口のうち、就業希望者について、「適当な仕事がありそうにない」ため求職活動をしていなかった者のうち、過去1年間に求職活動をしたことがある者（ただし、「仕事があればすぐつける」者とする。）は、2017年平均で20万人と、前年に比べ2万人の減少となった。

第4 就業異動の状況

1 過去1年間の離職経験者のうち、就業者は4万人増加、完全失業者は7万人減少

過去1年間の離職経験者注)1は、2017年平均で559万人と、10万人の減少となった。これを現在の就業状態注)2別にみると、現在は就業者の者(転職者)が311万人と4万人の増加となった。一方、現在は完全失業者の者が85万人と7万人の減少、現在は非労働力人口の者が163万人と7万人の減少となった。

第5 若年層(15~34歳)の非正規の職員・従業員及びその希望者

1 「若年層のパート・アルバイト及びその希望者」は2万人減少

「若年層のパート・アルバイト及びその希望者注)1」(いわゆるフリーター注)2)は、2017年平均で152万人と、前年に比べ2万人の減少となった。男女別にみると、男性は70万人と2万人の減少、女性は82万人と前年と同数となった。

若年層人口(15~34歳人口)に占める割合は、2017年平均で5.9%と、前年に比べ0.1ポイントの低下となった。男女別にみると、男性は5.4%と0.1ポイントの低下、女性は6.6%と0.1ポイントの上昇となった。

2 25~34歳の「パート・アルバイト及びその希望者」は3万人減少

「若年層のパート・アルバイト及びその希望者」を年齢階級別にみると、15~24歳は2017年平均で64万人と、前年に比べ1万人の増加、25~34歳は88万人と3万人の減少となった。